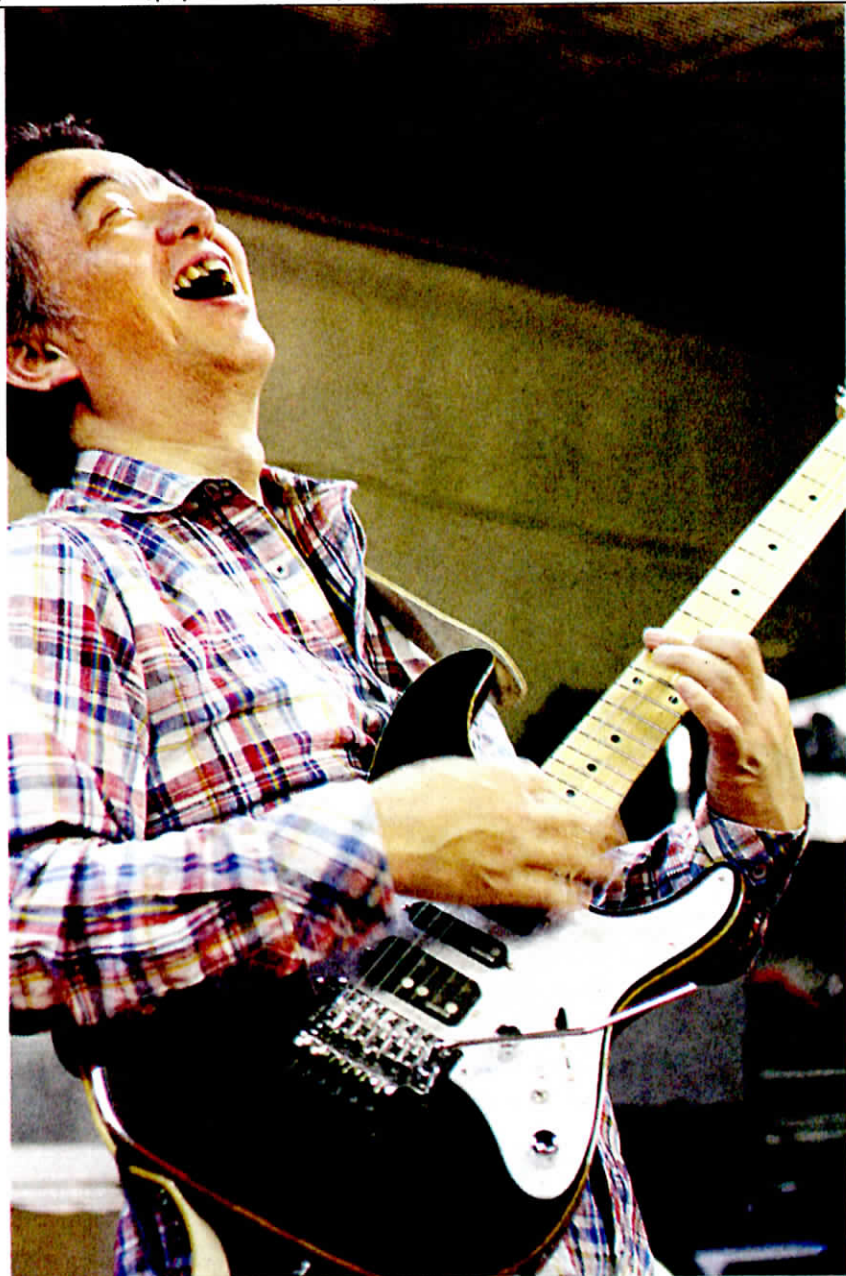




空白期間を経て、思い切りギターを楽しむ福江さん

80年代ロックで「青春」を再び 「人生経験が表現の幅広げる」

■大村市松並2丁目

福江 豊さん(50)

大音量で鳴り響くロックサウンド。福江豊さん(50)は、時に音に酔いしれているかのように目をつぶり、また時には唇を噛んで素早く弦の上の手を動かした。続けて4曲演奏し終わると、メンバーと顔を合わせて笑った。

大村市を拠点に活動するバンド「80's ELASTIC CHICA BAND」(エイラスエラスティックチカバンド)でギターを担当。メンバーは馬渡千賀子さん(6歳)の「おやじバンド」だ。

(ボーカル)、保坂奈月さん(キーボード)、田中公章さん(ベース)、森竹祥郎さん(ドラム)の5人組。それぞれにバンド経験があった仲間で結成した平均年齢45・6歳の「おやじバンド」だ。

得意とするのは

1980年代のロックとポップス。かつてのバンドブームに影響を受けたメンバーは「青春の再来」と言わ

んばかりにドゥービーブラザースの「ロンクトレインランニング」やマドンナの「ライクアバージン」、ザ・ナツクの「マイシヤローナ」など学生時代の思い出の曲を演奏している。全身でリズムを刻み、曲に合わせて片手を突き上げたりとノリノリで音楽を楽しむ。アレソングを加えることもあり「音を作り

上げていく過程が楽しい」と福江さん。音楽好きな5人の感性が合わさると、演奏に厚みが出るのだという。「自分一人では表現できない。これがバンドの良さですね」

20年ぶりのバンド活動

小学6年で初めてギターを弾いた。就職して公務員となっても続けるほどのめり込んでいたが、24歳のときにきっぱりと止めた。仕事との両立で中途半端になるのが嫌になったというのがその理由。「当時の仲間の前で宣言してね。持っていたギターや機材も手放しました」

それから約20年間、バンド活動は一切なし。この間には大病を思い、気分がふさがちな頃もあったという。体調が戻りつつあった45歳のころ、かつて一緒に活動していた幼なじみからバンド結成の声がかかった。一度は誘いを断ったものの、気晴らしになればと参加を決めた。

久々にギターをかき鳴らした時は爽快だった。「昔のように弾けなかったけど、すっかり楽しかった」と無邪気に笑う。それから5年。「いろんな音楽を聞いて、いろんな経験をしてきた分、表現の幅が広がった。今の自分だからこそ出せる音がある」と福江さん。年を重ねた円熟味が強みだと感じている。

現在、クラシックの女性フルート奏者を中心にポップな演奏をする「Dejima quartet」(デジマカルテット)など計

三つのバンドを掛け持ちしている。活動のメインは大村、諫早を中心に長崎県内であるイベント出演。「中途半端な演奏は格好悪い。20年のブランクを埋めるために徹底的に弾きこみます」

ステージに立つと、自然と笑みがこぼれる。知人からも「表情が良い」と言われるそうだ。「今、本当に幸せ。やっぱりバンドは楽しいね。今できる最高の音を求めて、純粋に音楽を楽しんでいる」。

イベント出演

●Dejima quartet

4月29日、長崎空港開港記念祭チャリティーコンサート

●80's ELASTIC CHICA BAND

5月19日、長崎ウエスレヤン大学(諫早市)メイフェスタ



「80's ELASTIC CHICA BAND」のメンバー。週に1回の練習は真剣に楽しく＝大村市内